

# 東北学院大学教育研究所2014年度活動

## 1.教育研究所報告集第14集 配布・発送:2014年3月

学内配布356部 学外発送261部

## 2.所員会議 2014年8月2日(土)

泉キャンパス 東北学院大学教育研究所

### 1. 報告事項

(1) 2014年度所員の紹介

(2) 2013年度予算決算

①2013年度予算決算報告

②報告集配布数報告(学内356、学外261 総計617部)

③購入図書リスト確認、2014年度の希望があれば申し出る。

(3) 2013、2014年度学会出張

①2013年度学会・参加者報告

②2014年度学会・参加者報告(終了・確定分)

・大学教育学会(6月) 水谷修所長

・東北・北海道地区大学等・共通教育研究会(8月) 大江篤志先生、水谷修所長

(4) その他(2013年度からの懸案事項の確認)

①報告集ホームページ公開に伴う著作権処理について

(ア) 報告集投稿規定を作成することとし、渡部友子先生が原案作成にあたる。

(イ) 承諾書については、片瀬一男先生が対応する。

②PCのネット解除について

(ア) データ流出防止策は、乙藤岳志先生に依頼する。

③新入生意識調査・卒業生意識調査について

(ア) ワーキングGを作って調査票の検討をすすめた。2014年度の新入生意識調査から教育研究所が実施主体となった。

## 2. 審議事項

### (1) 2014年度の活動計画（予算）

- ①示達書をもとに説明があり、計画案が承認された。
- ②予算変更願をもとに、学会予算の変更について説明があり了承された。

### (2) 研究所報告集第十五集（2015年3月刊行予定）の編集方針

検討の結果、以下のことが了承された。

- ①原稿提出期限：12月20日厳守（印刷・製本・発送を年度内に完了させるため）
- ②執筆者および原稿の内容：
  - ・ 斎藤誠副学長 教員成績評価アンケートの結果について（依頼原稿）
  - ・ 千葉昭彦先生 TGベーシックの現状、評価
  - ・ 片瀬一男先生 卒業生意識調査の分析
  - ・ 神林博史先生 新入生意識調査の分析
  - ・ 佐藤篤先生 「東北学院大学の教育を考える」（第10集から第12集にかけてシリーズ化していた内容。）

### (3) 新規事業の申請、2015年度予算編成

- ①②について説明があったのち、以下の（ア）（イ）（ウ）が確認された。
- ①予算編成に係わる重点項目提出期限：9月1日
- ②新規事業計画書、機器備品購入計画書提出期限：12月初旬
  - （ア）2015年度の予算については、原則として今年度予算をもとに編成する。
  - （イ）2015年度予算の編成に関して、意見や要望があれば所長に申し出る。
  - （ウ）新所員の先生方は、2016年度予算の編成に合わせて新規事業、購入計画等の検討をすすめ、意見や提案があれば所長に申し出る。

### (4) その他

- ①例年通り、所長が、入試部長に入試類型に関するデータ、学務部長に成績データの提供の申請を行うことを確認した。

## 教育研究所参加の2014年度学会・研究会

以下、教育研究所が機関会員になっているFD関係の学会ならびに所員が継続的に参加している研究フォーラム等の2014年度の活動を報告します。この種の学会やフォーラムに参加を希望される教職員は、本学の「FD推進委員会」管轄の旅費をご活用して下さい。詳しくは、各学部のFD推進委員会委員にお問い合わせ下さい。

### 1. 大学教育学会第36回（2014年）大会

会場校：名古屋大学東山キャンパス

日時：2014年5月31日（土）～6月1日（日）

出席者：水谷 修

#### 統一テーマ「研究と実践の往還から創出する知識」

趣旨：研究と実践はそれぞれ別個のものとしてではなく、相互の内容を高めるための不可分の関係ととらえることが必要である。日々の生活の中で意識することは少ないが、実際にはこの往還を繰り返している。学会は、高等教育における教育・学習の改善に向けた実践的な研究を志向しているが、それを具体的に実現するための一つのステップとして、本大会では、研究と実践の往還から創出する知識というものの性格と内容の解明に迫る。

#### 5月31日（土）

##### ラウンドテーブル「IRの学修・学生支援への活用」

報告者 濱名篤(関西国際大学)、藤木清(関西国際大学)、富岡和久(北陸学院大学)

文部科学省の大学間連携共同教育推進事業「主体的な学びのための教学マネジメントシステムの構築」の一部として研究開発された「学生支援型IR」の可能性と課題について、アメリカにおけるIRの動向および日本での事例報告を材料に、①IRの目的、②対象とするデータの範囲、③分析方法、④活用の4つの観点から意見交換がなされた。

##### 基調講演「現代社会を生きるための教養と大学教育」

講演者：亀山 郁夫 氏（名古屋外国語大学・学長）

学長として教育改革を推進してきた経験をふまえ、社会が大きく変動する中で、明日の社会を担う若者たちに求められる教養とはいかなるものなのか、特に、人文学に突き付けられている最大の課題

である「実践の知としてどんな可能性があるのか」について、人文学の使命が最終的にはエンパシー（感情移入力）の育成にあり、それが、「グローバル人材の育成」という実践的目標においても重要な役割をはたしている。

### シンポジウム「大学教育改革につながる実践的知識の共有」

報告1 FD・SD教材作成の立場から 中井 俊樹（名古屋大学）

報告2 障がいのある学生の支援の立場から 青野 透（金沢大学）

報告3 アカデミック・ライティング教育の立場から 佐渡島 沙織（早稲田大学）

現在、多くの大学は、教育の改革・改善を進めており、置かれた条件をふまえて、適切な内容と方法を考案し、試行錯誤を繰り返している。その過程で形成される知識・スキルは、きわめて実践的なものであり、教育改革・改善を継続的に実施する上で重要なものである。それが大学で一定の有効性をもつものであれば、多くの大学がそれを共有することは、教育改革・改善を普及させるうえで必要である。そのために、知識・スキルを言語化することは、その有効性を検証し内容を高度化するとともに、より多くの大学関係者が活用できるようにするうえで不可欠の課題といえる。

しかし、その知識・スキルは、実践的であるがゆえに、学術的には重視されることは少なく、むしろ軽視され、学術研究の対象とされることも従来は少なかった。このような状況を踏まえ、3つの報告をもとに、大学教育の改善につながる実践的知識の内容やその形成・活用方法についての検討がなされた。

### 6月1日（日）

#### 自由研究発表

宮橋小百合「初年次学生に学生のピア関係がもたらす効果」

ピア・リーダーに学習サポートを受けた1年生への調査をもとにした、活動の具体的な影響、ピア・リーダー・システムに対するニーズや改善点などのシステム評価、今後の課題についての報告

木村充他「サービス・ラーニングにおける地域の教育力と学生の学習成果に関する研究」

正課のサービス・ラーニング科目の受講者を対象に行った調査データをもとに、サービス・ラーニングにおける地域の教育力の構造および学生の学習成果との関連を明らかにした研究の報告

長谷川伸「ラベル図解による学びの見える化」

教員が何を教えたかではなく、学生が授業で何を学んだかを知ることが重要であるとの認識のもとに実践されている、「ラベル図解」を用いた授業の報告 など

## 2. 第64回東北・北海道地区大学等 高等・共通教育研究会

会場校：帯広畜産大学

日 時：平成26年8月28日（木）、29日（金）

出席者：2名 大江 篤志、水谷 修

### 全体テーマ 「大学の専門性を支える教養教育」

教養教育をめぐる大きな問題のひとつとして、専門教育との関係がある。大きく見れば、教養教育をその大学・学部の専門教育とは独立した、あらゆる専門に共通に必要な知識基盤を作るための教育と考える、自由七科（リベラルアーツ）以来の伝統的な考え方や、教養教育を専門教育のための基礎を作る教育と位置づける考え方が、対立したり融合したりしながら発展してきたのが、日本の大学における教養教育の歴史ということもできる。

「大綱化」以降の教養課程解体、教養教育の学部分属の流れの中では専門教育の基礎としての教養教育に重点が置かれる時期が続いたが、最近は高等教育における人間性や社会性の育成が求められるようになるとともに、リベラルアーツとしての教養教育の役割が再評価されているようにも見える。

教養教育がリベラルアーツとしての意味と専門基礎教育としての2つの意味をもつことは間違いなく、各大学における教養教育がその2つの機能をそれぞれ発揮して、学生に幅広い知識や思考力を与えることと、専門教育の基礎となる知識を与えることの両面から、その大学の専門性を支えることができるのはひとつの理想の姿であると言える。比較的大規模な総合大学では、多くの教員が教養教育を担当することによって多様な授業科目を用意できるために、2つの機能の両立は比較的容易である。しかし小規模な大学、とくに専門教育に特化した単科大学では教養教育のためだけに多くの教員を確保することが難しく、その大学の専門教育分野の基礎になるような科目に資源を集中することが多くなる。

そのいっぽうで、リベラルアーツとしての教養教育、それを通じた人間性の醸成への社会的要請が近年高まってくるとともに、外国語教育でも英語だけでなく多様な外国語への需要が高まっている。とくに小規模な単科大学や短期大学で、こうした教養教育への要請にどのように答えるか、どのようにして多様な教養教育を提供するか、ということが大きな問題となる。そのなかで、専門教育の基礎的な教育を充実しながら、そこに人間性の醸成、コミュニケーションや対人関係の向上という要素を加味していく方法はひとつの可能性を持つのである。

今回の「東北・北海道地区高等・共通教育研究会」では、こうした専門教育を支える教養教育充実の取組を、「教養教育の大学内連携・大学間連携」「外国語教育の多様化と方向性」「学生の社会性を涵養する教養教育」の3つのテーマから取り上げ、事例報告をする

## 全体会 基調講演

### 「帯広畜産大学の初年次教育についてーピアサポートシステムと全学農畜産実習ー」

帯広畜産大学では初年次教育に関して、平成18年度に「全学農畜産実習」を通じた総合的導入教育で文部科学省・特色G P（特色ある大学教育プログラム）に採択、平成22年度には「ピアサポートで支える補習教育と初年次教育」が日本学術振興会「大学教育・学生支援推進事業 大学教育推進プログラム」に採択された。多くの大学でG P関連の予算が途切れるとそのプログラムが終了もしくは大幅なプログラム縮小という現状において、本学ではいずれの取り組みも予算配分が途切れた後も粛々とそのプログラムが進められている。

「ピアサポートシステム」の取り組みの概要は

- 1) 上級生チューターによるピアサポート体制
- 2) 高校補習教育に重点を置く講義の開講
- 3) 初年次教育の支援及び改善の基盤となる学習支援コーディネーター室の設置
- 4) 教育支援室による支援体制の確立

にまとめられ、本学の教育理念である、「獣医農畜産の幅広い領域で活躍する専門職業人の養成」のより高度な実現を目指すものとして開始され、現在に至っている。

## 分科会

### （1）第1分科会テーマ 「教養教育の大学内連携・大学間連携」

第1分科会では、教養教育の充実と多様化をめざす大学内・大学間連携の取組に焦点を当てる。

高等教育における人間性教育への社会的要請が高まる中で、教養教育の役割の見直しが進み、教養教育の充実と多様化が喫緊の課題となっている。いっぽうで、単位の実質化・成績評価の厳格化の流れの中で教員の教育負担は増大し、教養教育の充実に向けられる時間には限界がある。そうした状況の中で教養教育を充実・多様化するためには、組織や専門を超えた教員間の連携が重要になると同時に、地域コンソーシアムなどを軸とした地域連携、大学間の連携が課題となっており、そうした連携を活かした授業内容、授業計画、履修の方法などについて、各大学、各地域でさまざまな取組が展開されている。

### （2）第2分科会テーマ 「外国語教育の多様化と方向性」

第2分科会では、外国語教育の充実を目指す多様な取組に焦点を当てて、事例の交換と、意見の交流を図る。

高等教育にグローバル人材の育成が強く求められる中、学生の外国語コミュニケーション能力を向上させるためのカリキュラムや教育方法の改善にすべての大学が取り組んでいるが、そのいっぽうで、

各大学で外国語教育を担当する教員の数や教育のためのリソースは限られており、とくに英語以外の言語の教育を実施し維持することにはさまざまな困難がある。限られた条件の中で外国語教育を充実し多様化するために、ネイティブによる授業、ネットやITを活用した授業方法など、各大学でさまざまな教育努力が展開されているものと思われる。

この分科会では、英語教育、英語以外の外国語教育のそれぞれの面から、外国語教育の多様化を目指した取組について広く話題提供をしていただきたい。なお、この分科会では日本語以外に英語による事例報告、討議も可能である。

### **(3) 第3分科会テーマ 「学生の社会性を涵養する教養教育」**

第3分科会では、教養教育を通じて学生の社会性、対人関係能力、倫理観などを涵養しようとする取組に焦点を当てて、事例の交換と、意見の交流を図る。

産業構造の変化に伴い、社会が大学卒業者に求める能力として専門的な知識や技術にくわえて社会性や対人関係能力、コミュニケーション能力が強く求められるようになっており、それに対応した教育の試みも進んでいる。

また、そうした能力や人間性の評価を入学試験に導入しようという取組を進めている大学もあると思われる。いっぽうで科学研究における不正が社会的に注目されるなか、試験やレポートにおける「コピペ」の問題など、知識や技術の利用にかかわる倫理観を育てる教育も大学に求められるようになっており、それに対応した授業内容の改善も課題になる。こうした専門的知識以外のスキルや社会性を育成する教養教育を目指した取組について広く話題提供をしていただきたい。

## **3. 大学教育学会2014年度課題研究集会**

会場校：神奈川工科大学

日時：2014年11月29日（土）、11月30日（日）

参加者： 渡部友子

### **統一テーマ：「日本社会における大学教育の意義」**

趣旨：新たに「グローバル化」というキーワードのもと、有能な社会人の資質とは何か、教育効果が高い学習とはなにか、といった基本的な問いとも向き合いながら、大学は変革への努力を求められている。本大会を、学生にとって真に身になる大学教育とは何かを改めて考える場としたい。

11月30日（土）

**基調講演「グローバル化・デジタル化する日本社会における大学教育の意義：通過儀式からキャリア・ビジョンの転轍機へ」**

講演者：吉見俊哉（東京大学）

概要：16世紀の印刷革命が大学のあり方を大きく変えたように、21世紀のデジタル革命が大学のあり方を再度変えようとしている。大学は高校および社会とタテに連携し、さらに学際的および国際的に、ヨコにも連携すべきである。狭い領域に閉じ込めるのではなく、複数の領域に対応できる人材を育てるべきである。

**開催校企画シンポジウム「現代社会の『学び』と『教養』教育」**

シンポジスト：渡部信一（東北大学） 藤本夕衣（慶応義塾大学） 佐々木一也（立教大学）

コメンテーター：吉見俊哉（東京大学）

司会：山本聡（神奈川工科大学） 師玉真理（神奈川工科大学）

概要：グローバル化した社会での学びは、ローカルを捨てることを意味しない。むしろ学びを学生の現実世界（生活世界）と切り離さず、知識を身体化させるべきである。

12月1日（日）

**シンポジウムI「学士課程教育における共通教育の質保証」**

シンポジスト：高橋哲哉（大阪府立大学） 高野篤子（大正大学） 林透（山口大学）

司会：山田礼子（同志社大学）

概要：共通教育の成果をどのように評価するかについて、3件の報告がされた。

- ①共通教育の実施状況の全国調査（実施責任者に対する間接評価）
- ②数学教育の現状調査（学生に対する直接評価）と文系向け数学教育の提案
- ③山口大学でのコモン・ルーブリックの開発

**シンポジウムII（IIIと同時進行であったため参加せず）**

「FDの実践的課題解決のための重層的アプローチ」

**シンポジウムIII「発達障害学生への学習支援・大学の役割」**

シンポジスト：青野透（金沢大学） 小川勤（山口大学） 片岡美華（鹿児島大学）

司会：青野透（金沢大学）

指定発言：橋場論（福岡大学） 望月由起（お茶の水大学）



概要：障害者差別解消法が2018年4月に施行されると、大学は障害学生に対しての「合理的な配慮」が義務づけられるため、具体的な対応方法の検討を始めるべき時期にきている。発達障害は障害が見えにくいいため対応が難しい。学力はあるので入試を突破して入学してくる。従来の知識重視型教育では支障がないが、グループ活動や論文執筆で問題が表面化しやすい。彼らとどう関わり支援すべきか、彼らにとって困難な課題は別の課題に置き換えるべきか、大学全体で考えなければならない。

#### 4. 第21回大学教育研究フォーラム

会場校：京都大学

日 時：2015年3月13日（金）～14日（土）

出席者：1名 千葉 昭彦

## 教育研究所購入図書一覧（2006年度以降）

教育研究所の所蔵図書の閲覧を希望される教職員の皆様は、当研究所までお申し出ください。所定の手続きを踏まえて貸出をしております。

### 2014年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・シリーズ大学7巻対話の向こうの大学像、広田照幸、岩波書店、2014年
- ・高等教育研究 第1集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、1998年
- ・高等教育研究 第2集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、1999年
- ・高等教育研究 第3集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2000年
- ・高等教育研究 第4集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2001年
- ・高等教育研究 第9集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2006年
- ・高等教育研究 第10集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2007年
- ・高等教育研究 第11集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2008年
- ・高等教育研究 第13集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2010年
- ・高等教育研究 第14集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2011年
- ・高等教育研究 第16集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2013年
- ・高等教育研究 第17集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2014年
- ・現代教育制度改革への提言 上、日本教育制度学会、東信堂、2013年
- ・現代教育制度改革への提言 下、日本教育制度学会、東信堂、2013年
- ・ディープアクティブラーニング、松下佳代、勁草書房、2015年
- ・アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換、溝上慎一、東信堂、2014年
- ・教育方法原論、吉田卓司、三学出版、2013年
- ・学びの質を保障するアクティブラーニング、河合塾、東信堂、2014年
- ・学生の理解を重視する大学授業、ノエル・エントウィルス、玉川大学出版部、2010年

### 2013年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・大学入試の終焉、佐々木隆正、北海道大学出版会、2012年
- ・大学の教務Q&A、中井俊樹、玉川大学出版部、2013年
- ・シリーズ大学1巻グローバル化と大学、吉田文、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学2巻大衆化する大学、濱中淳子、岩波書店、2013年

- ・シリーズ大学3巻大学とコスト、上山隆大、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学4巻研究する大学、小林傳司、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学5巻教育する大学、広田照幸、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学6巻組織としての大学、広田照幸、岩波書店、2013年
- ・大学生のための「社会常識」講座、松野弘、ミネルヴァ書房、2011年
- ・大学生活を楽しむ護身術、宇田光、ナカニシヤ出版、2012年
- ・大学1年生からのコミュニケーション入門、中野美香、ナカニシヤ出版、2010年
- ・大学生からのプレゼンテーション入門、中野美香、ナカニシヤ出版、2012年
- ・新編大学学びのことはじめ、佐藤智明、ナカニシヤ出版、2011年
- ・理工系学生のための大学入門、金田徹、ナカニシヤ出版、2012年
- ・プロフェッショナル・ディベロップメント、安藤厚、北海道大学出版会、2012年
- ・航行をはじめた専門職大学院、吉田文、東信堂、2010年
- ・日本とドイツの教師教育改革、渡邊満、東信堂、2010年
- ・教員養成学の誕生、遠藤孝夫、東信堂、2007年
- ・教育機会均等への挑戦、小林雅之、東信堂、2012年
- ・アメリカ連邦政府による大学生経済支援政策、犬塚典子、東信堂、2006年
- ・現代アメリカにおける学力形成論の展開、石井英真、東信堂、2011年
- ・アメリカ公民教育におけるサービス・ラーニング、唐木清志、東信堂、2010年
- ・ソーシャルキャピタルと生涯学習、ジョン・フィールド、東信堂、2011年
- ・ノンフォーマル教育の可能性、丸山英樹、新評論、2013年
- ・日本の社会教育・生涯学習、小林文人、大学教育出版、2013年

## 2012年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・比較教育学事典、日本比較教育学会編、東信堂、2012年
- ・大学のカリキュラムマネジメント—理論と実際—、中留武昭著、東信堂、2012年
- ・学生の学力と高等教育の質保証〈1〉、山内乾史緒、学文社、2012年
- ・教育学年報〈9〉大学改革（教育学年報9）、藤田 英典（編集）、片桐 芳雄（編集）、黒崎 勲（編集）、佐藤 学（編集）、世織書房 2012年
- ・高等教育論入門、早田 幸政（編集）、青野 透（編集）、諸星 裕（編集）、ミネルヴァ書房、2010年
- ・ボランティア教育の新地平、桜井 政成（編さん）、津止 正敏（編さん）著、ミネルヴァ書房

2009年

- ・大学生のためのリサーチリテラシー入門、山田剛史、林創著、ミネルヴァ書房、2011年
- ・大学における学習支援への挑戦、日本リメディアル教育学会監修、ナカニシヤ出版、2012年
- ・大学と変える大学教育、清水亮、橋本勝、松本美奈編、ナカニシヤ出版、2009年
- ・学生主体型授業の冒険、小田隆治、杉原真晃編著、ナカニシヤ出版、2010年
- ・大学におけるキャリア教育の実践、小樽商科大学地域研究会編 ナカニシヤ出版、2010年
- ・大学生のためのデザインキャリア、渡辺三枝子、五十嵐浩也、田中勝男、高野澤勝美著、ナカニシヤ出版、2011年
- ・大学生のキャリア発達、宮下一博著、ナカニシヤ出版、2010年
- ・協同学習の技法、E.F.Barkley/K.P.Cross/C.H.Major著、ナカニシヤ出版、2009年
- ・実践！アカデミックディベート、安藤香織、田所真生子編、ナカニシヤ出版、2002年
- ・生成する大学教育学、高等教育研究開発推進センター編、ナカニシヤ出版、2012年
- ・学生・職員と創る大学教育、清水亮、橋本勝編、ナカニシヤ出版、2012年
- ・学生の納得感を高める大学授業、山地弘起、橋本健夫編著、ナカニシヤ出版、2012年
- ・グローバルキャリア教育、友松篤信編、ナカニシヤ出版、2012年
- ・大学教育の臨床的研究 田中毎実著、東信堂、2011年
- ・スタンフォード21世紀を創る大学、ホーン川嶋瑤子著、東信堂、2012年
- ・学士課程教育の質保証へむけて、山田礼子著、東信堂、2012年
- ・大学自らの総合力、寺崎昌男著、東信堂、2010年

#### 2011年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・批判的思考力を育む、楠見 孝, 子安 増生, 道田 泰司、有斐閣、2011年
- ・高等教育室保証の国際比較、羽田 貴史, 杉本 和弘, 米澤 彰純、東信堂、2009年
- ・私立大学の経営と拡大・再編、両角亜希子、東信堂 2010年
- ・学習経験をつくる大学授業法、L. デイー・フィンク 、玉川大学出版部、2011年
- ・変貌する世界の大学教授職、有本 章、玉川大学出版部、2011年
- ・学級経営読本、小島 宏、玉川大学出版部、2012年
- ・転換期日本の大学改革、江原 武一、東信堂、2010年
- ・成績評価の厳格化と学習支援システム 半田 智久、地域科学研究会 2011年
- ・リーディングス 日本の教育と社会—⑫高等教育 塚原 修一, 広田 照幸、日本図書センター、2009年

## 2010年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・大学の反省、猪木武徳、NTT出版、2009年
- ・2011年版大学ランキング、週刊朝日進学MOOK、2010年
- ・初年次教育でなぜ学生が成長するのか、河合塾、東信堂、2010年
- ・学力問題のウソ、小笠原喜康、PHP研究所、2008年
- ・大学とキャンパスライフ、武内清、上智大学出版、2005年
- ・リーディングス日本の教育と社会―第1巻学力問題・ゆとり教育、中村高康編、玉川大学出版部、2010年
- ・リーディングス日本の教育と社会―第3卷子育て・しつけ、橋本鉦市編、玉川大学出版部、2010年
- ・リーディングス日本の教育と社会―第5巻大学と学問、阿曾沼明裕、玉川大学出版部、2010年
- ・リーディングス日本の教育と社会―第6巻歴史教科書問題、村澤昌崇編、玉川大学出版部、2010年
- ・大学と社会、安原義仁、放送大学教育振興会、2008年
- ・高等教育質保証の国際比較、羽田貴史、東信堂、2009年
- ・私立大学の経営と拡大・再編、両角亜希子、東信堂、2010年
- ・戦後日本産業の大学教育要求、飯吉弘子、東信堂、2008年
- ・大学教育を科学する、山田礼子、東信堂、2009年
- ・大学における書く力考える力、井下千以子、東信堂、2008年
- ・2010年版大学ランキング、朝日新聞出版、2009年
- ・「教育改革」と労働のいま、日本社会臨床学会、現代書館、2008年
- ・国際移動と教育、江原裕美、明石書店、2011年
- ・グローバル化時代の教育の選択、増淵幸男、上智大学出版、2010年
- ・大学の危機、草原克豪、弘文堂、2010年
- ・教育用語辞典、山崎英則編、ミネルヴァ書店、2003年
- ・教育学をひらく、鈴木敏正、青木書店、2009年
- ・「教育」としての職業指導の成立、石岡学、勁草書房、2011年
- ・大学を変える、東海高等教育研究所、大学教育出版、2010年
- ・シティズンシップへの教育、中山あおい、新曜社 2010年
- ・学校の挑戦、佐藤学、小学館、2006年

- ・教師花伝書、佐藤学、小学館、2009年
- ・リーディングス日本の教育と社会―③子育て・しつけ、広田照幸日本図書センター、2007年
- ・リーディングス日本の教育と社会―⑤愛国心と教育、大内裕和、日本図書センター、2007年
- ・リーディングス日本の教育と社会―⑥歴史教科書問題、三谷博、日本図書センター、2007年
- ・リーディングス日本の教育と社会―⑦子どもと性、浅井春夫、日本図書センター、2007年
- ・リーディングス日本の教育と社会―⑧いじめ・不登校、伊藤茂樹、日本図書センター、2007年
- ・リーディングス日本の教育と社会―⑨非行・少年犯罪、伊藤茂樹、日本図書センター、2007年
- ・リーディングス日本の教育と社会―⑩子どもとニューメディア、北田暁大・大多和直樹、日本図書センター、2007年

### 2009年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・資料で読む戦後・日本と愛国心 第一巻、市川昭午、日本図書センター、2008年
- ・資料で読む戦後・日本と愛国心 第二巻、市川昭午、日本図書センター、2009年
- ・資料で読む戦後・日本と愛国心 第三巻、市川昭午、日本図書センター、2009年
- ・論文を書くためのWord利用法、くろしお出版、2009年
- ・知のナビゲーター、くろしお出版、2007年
- ・知へのステップ 改訂版、くろしお出版、2006年
- ・知のワークブック、くろしお出版、2006年
- ・落下傘学長奮闘記、黒木登志夫、中央公論新社、2009年
- ・最新教育データブック 第12版、清水一彦、時事通信出版局、2008年
- ・アカデミック・ポートフォリオ、ピーター・セルディン、玉川大学出版部、2009年
- ・基礎からわかるポートフォリオのつくり方・すすめ方、佐藤真、東洋館出版社、2002年
- ・国民国家システムの変容、吉川宏、学術出版会、2008年
- ・アメリカの大学開放、五島敦子、学術出版会、2008年
- ・近代日本教育会史研究、梶山雅史、学術出版会、2007年
- ・臨時教育審議会、渡部蕪、学術出版会、2006年
- ・大学英語教育における教授手段としてのポートフォリオに関する研究、峯石緑、溪水社、2002年
- ・大学の実力、読売新聞社、中央公論新社、2009年
- ・大学を語る 22人の学長、玉川大学出版部、1997年
- ・大学個性化の戦略、玉川大学出版部、2000年

- ・大学教師の自己改善、玉川大学出版部、2000年
- ・大学進学の世界、小林雅之、東京大学出版会、2009年
- ・21世紀の教育を拓く、山田耕路、西日本新聞社、2009年
- ・高等教育質保証の国際比較、羽田貴史、東信堂、2009年
- ・教育とエビデンス、経済協力開発機構、明石書店、2009年
- ・教育研究ハンドブック、立田慶裕、世界思想社、2008年
- ・キャリア教育概説、日本キャリア教育学会、東洋館出版社、2008年
- ・変貌する日本の大学教授職、有本章、玉川大学出版部、2008年
- ・統計学からの計量経済学入門、藤山英樹、昭和堂、2007年
- ・批判的リテラシーの教育、竹川慎哉、明石書店、2010年
- ・転換期を読み解く、潮木守一、東信堂、2009年
- ・リーディングス日本の教育と社会第1巻、学力問題・ゆとり教育、広田照幸、日本図書センター、2009年
- ・リーディングス日本の教育と社会第2巻、学歴社会・受験戦争、広田照幸、日本図書センター、2007年
- ・リーディングス日本の教育と社会第4巻、教育基本法、広田照幸、日本図書センター、2006年
- ・リーディングス日本の教育と社会第12巻、高等教育、広田照幸、日本図書センター、2009年

#### 2008年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・学力低下は錯覚である、神永正博、森北出版、2008年（第9集に書評掲載）
- ・国立大学・法人化の行方、天野郁夫、東信堂、2008年
- ・フンボルト理念の終焉？—現代大学の新理念、潮木守一、東信堂、2008年
- ・教育人間論のルーマン、田中智志・山名淳、勁草書房、2004年
- ・他者の喪失から感受へ、田中智志、勁草書房、2002年
- ・大学生のための日本語表現トレーニングスキルアップ編、橋本修、三省堂、2008年
- ・自分 私を拓く、水原克敏、東北大出版、2003年
- ・三高の見果てぬ夢—中等・高等教育成立過程と折田彦市、巖平、思文閣出版、2008年
- ・札幌農学校と英語教育、外山敏雄、思文閣出版、1992年
- ・高等教育の経済分析と政策、矢野眞和、玉川大学出版部、1996年
- ・大学改革の海図、矢野眞和、玉川大学出版部、2005年
- ・教育社会の設計（UP選書）、矢野眞和、東京大学出版会、2001年

- ・入試改革の社会学、中澤渉、東洋館出版社、2007年
- ・大学とキャンパスライフ、武内清、上智大学出版、2008年
- ・学校システム論、竹内洋、放送大学教育振興会、2007年
- ・これからの教養教育―「カタ」の効用（未来を拓く人文・社会科学）、葛西康德、鈴木佳秀、東信堂、2008年
- ・団塊世代の同時代史（歴史文化ライブラリー）、天沼香、吉川弘文館、2007年
- ・戦後教育のなかの〈国民〉―乱反射するナショナリズム、小国喜弘、吉川弘文館、2007年
- ・知と学びのヨーロッパ史―人文学・人文主義の歴史的展開（MINERVA西洋史ライブラリー）、南川高志、吉川弘文館、2007年
- ・改めて「大学制度とは何か」を問う、館昭、東信堂、2007年
- ・原点に立ち返っての大学改革、館昭、東信堂、2006年
- ・30年後を展望する中規模大学マネジメント・学習支援・連携、市川太一、東信堂、2006年
- ・ティーチング・ポートフォリオ―授業改善の秘訣、土持ゲーリー法一、東信堂、2007年
- ・世界標準の読解力―OECD・PISAメソッドに学べ、岡部憲治、白日社、2007年
- ・心理統計学の基礎―統合的理解のために、南風原朝和、有斐閣アルマ、2002年
- ・実践的研究のすすめ―人間科学のリアリティ、小泉潤二・志水宏吉、有斐閣、2007年
- ・大学の学び・入門―大学での勉強は役に立つ！、溝上慎一、有斐閣アルマINTEREST、2006年
- ・大学生の就職とキャリア―「普通」の就活・個別の支援、小杉礼子、勁草書房、2007年
- ・大学生の職業意識とキャリア教育、谷内篤博、勁草書房、2005年
- ・働く意味とキャリア形成、谷内篤博、勁草書房、2007年
- ・キャリア教育と就業支援、小杉礼子・堀有喜衣、勁草書房、2006年
- ・教育史研究の最前線、教育学史会編、日本図書センター、2007年
- ・資料で読む前後日本と愛国心〈第1巻〉復興と模索の時代一九四五～一九六〇、市川昭午、日本図書センター、2008年
- ・大学ランキング、「週刊朝日」進学MOOK、2008年
- ・日本の大学教授市場（高等教育シリーズ142）、山野井敦徳、玉川大学出版部、2007年
- ・ベストプロフェッサー（高等教育シリーズ）、ケン・ベイン、玉川大学出版部、2008年
- ・大学の英語教育を変える―コミュニケーション力向上への実践指針、山地弘起、玉川大学出版部、2008年
- ・アメリカの学生獲得戦略（高等教育シリーズ）、山田礼子、玉川大学出版部、2008年
- ・大学教育を変える教育業績記録、ピーター・セルディン、玉川大学出版部、2007年



## 2007年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・ 大学を解体せよ、中野憲志、現代書館、2007年
- ・ 大学図鑑！2008、オバタカズユキ、ダイヤモンド社、2007年
- ・ 学生諸君！ 夏目漱石他、光文社、2006年
- ・ 大学教育のエクセレンスとガバナンス、地域科学研究会、地域科学研究会、2006年
- ・ 教育学事始め、氏家重信、北大路書房、2007年
- ・ 学生による教育再生会議、東京学生教育フォーラム、平凡社新書、2007年
- ・ 大学改革の社会学、天野郁夫、玉川大学出版部、2007年
- ・ 大学のイノベーション、坂本和一、東信堂、2007年
- ・ あたらしい教養教育をめざして、大学教育学会、東信堂、2004年
- ・ 学力を育てる、志水宏吉、岩波書店、2006年
- ・ 大学ランキング、2008年版、週刊朝日進学MOOK、朝日新聞社、2007年
- ・ 大学の教育力、金子元久、筑摩書房、2007年
- ・ 教育デザイン入門、実践的ソフトウェア教育コンソーシアム、オーム社、2007年
- ・ 大学改革その先を読む、寺崎昌男、東信堂、2007年
- ・ 大学卒業制度の崩壊、藤田整、文芸社、2007年
- ・ 大学教育の思想、絹川正吉、東信堂、2006年
- ・ 大学における初年次少人数教育と「学びの転換」、東北大学高等教育開発推進センター、東北大学出版会、2007年
- ・ A O型入学選抜の多様な進化(上)、地域科学研究会、地域科学研究会、2000年
- ・ A O型入学選抜の多様な進化(下)、地域科学研究会、地域科学研究会、2001年

## 2006年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・ 恐るべきお子さま大学生たち、ピーター・サックス、草思社、2000年（第6集に内容紹介掲載）
- ・ 息子・娘を成長させる大学、読売新聞社、読売新聞社、2006年
- ・ 潰れる大学・伸びる大学辛口採点2007年版、梅津和郎、エール出版社、2005年
- ・ 大学ランキング 2007年版、朝日新聞社、朝日新聞社、2006年
- ・ 危ない大学・消える大学 2007年版、島野清志、エール出版社、2006年
- ・ 大学改革の社会学、天野郁夫、玉川大学出版部、2006年
- ・ 大学生活ナビ、玉川大学コア・F Y E教育センター編、玉川大学出版部、2006年

- ・ 大学論、エイブラハム・フレックスナー、玉川大学出版部、2005年
- ・ プロフェッショナル化と大学、日本高等教育学会編、玉川大学出版部、2004年
- ・ ヨーロッパの高等教育改革、ウーリッヒ・タイヒラー、玉川大学出版部、2006年
- ・ アジアの高等教育改革、フィリップ・G・アルトバック&馬越徹編、玉川大学出版部、2006年
- ・ 戦後日本の高等教育改革政策、土持ゲーリー法一、玉川大学出版部、2006年
- ・ 私学高等教育の潮流、Ph.G・アルトバック編、玉川大学出版部、2004年
- ・ 高等教育 改革の10年、日本高等教育学会編、玉川大学出版部、2003年
- ・ 大学教育「教育評価ハンドブック」、ラリー・キーン&マイケル・D・ワガナー、玉川大学出版部、2003年
- ・ 知識基盤社会と大学の挑戦、佐々木毅、東京大学出版会、2006年
- ・ オランダの個別教育はなぜ成功したのか、リヒテル直子、平凡社、2006年
- ・ じょうずな勉強法、麻柄啓一、北大路書房、2005年
- ・ 大学講義の改革、宇田光、北大路書房、2005年
- ・ 大学基礎講座 改増版、藤田哲也、北大路書房、2006年
- ・ “学生”になる！、浦上昌則、北大路書房、2006年
- ・ S D（スタッフ・ディベロップメント）が育てる大学経営人材、山本眞一、文葉社、2004年
- ・ 21世紀の大学職員像、立命館大学、かもがわ出版、2005年
- ・ 人が学ぶということ、今井むつみ、野島久雄、北樹出版、2003年
- ・ 研究計画書デザイン、細川英雄、東京図書、2006年
- ・ これで書ける！大学院研究計画書攻略法、進研アカデミーグラデュエート大学部編、オクムラ書店、2002年
- ・ 大学力、有本章、北垣郁雄、ミネルヴァ書房、2006年
- ・ 大学激動、朝日新聞社、朝日新聞社、2003年
- ・ 大学事務職員のための高等教育システム論、山本眞一、文葉社、2006年
- ・ 認知心理学者新しい学びを語る、森敏昭、北大路書房、2002年
- ・ 授業を変える、米国学術研究推進会議、北大路書房、2002年
- ・ 学力低下論争、市川伸一、ちくま新書、2002年
- ・ 学ぶ意欲の心理学、市川伸一、P H P 研究所、2001年
- ・ 学ぶこと・教えること、鹿毛雅治、金子書房、1997年
- ・ 授業デザインの最前線、高垣マユミ、北大路書房、2005年
- ・ 教材設計マニュアル、鈴木克明、北大路書房、2002年

- ・大学講義の改革、宇田光、北大路書房、2005年
- ・教育力、斎藤孝、岩波新書、2007年

### 所収和雑誌

・大学教育学会誌	1980年～	No.1～ (旧一般教育会誌)
・大学資料	1989年～	No.139～
・大学と学生	1989年～2011年	No.397～565
・内外教育	1989年～	No.4023～
・文部科学時報	1989年～2012年	No.1344～1635
・教育委員会月報	1989年～	No.465～
・教育情報パック	1990年～2007	No.401～806
・I D Eー現代の高等教育	1991年～	No.276～

### 継続購入資料

・発達障害白書	1996年～	
・文部科学白書 (旧我が国の文教政策)	1996年～	
・学校基本調査報告書	1992年～	(初等中等教育、高等教育)

## 既刊「教育研究所報告集」の主要内容

### 第14集 2014年3月

#### ○研究報告

- ・大学生生活の評価―「2012年度卒業生意識調査」より 片瀬 一男
- ・本学における不本意入学者の特徴：  
東北学院大学新入生意識調査の分析 神林 博史
- ・本学の共通英語教育のあり方を考える  
―英語教育の最近の動向を踏まえて― 渡部 友子

### 第13集 2013年3月

#### ○研究報告

- ・現実感をもった英語教育を：英語教育改革私案 渡部 友子
- ・「大学組織の意思決定における職員参加」調査報告 亀谷 純

#### ○報告

- ・今回の本学教養教育改革について―その背景、意義と今後の課題― 斎藤 誠

### 第12集 2012年3月

#### ○研究報告

- ・アカデミックスキル・ルーブリックの開発―初年次教育におけるスキル評価の試み―  
葛西 耕市・稲垣 忠

#### ○報告

- ・「学生生活実態調査」(2006年・2010年)にみられる本学学生の特徴  
―私大連全体との比較の中で― 斎藤 誠

#### ○書評

- ・今日の「大学改革」の可能性 ―潮木守一『フンボルト理念の終焉？現代大学の新たな次元』を読んで―  
千葉 昭彦

#### ○シリーズ・東北学院大学の教育を考える 第3回

- ・教養教育雑感 ――自然科学教員が見た大学教育― 高橋 光一

## 第11集 2011年3月

### ○研究報告

- ・初年次教育による高校と大学の接続－東北学院大学教養学部の場合－ 片瀬 一男・葛西 耕市
- ・入試方法と学業成績－東北学院大学2009年度卒業生データの分析－ 神林 博史

### ○報告

- ・2009年度「卒業時意識調査」報告 加藤 健二

### ○シリーズ・東北学院大学の教育を考える 第2回

- ・東北学院（大学）の英語教育を考える 戸田 征男

## 第10集 2010年3月

### ○特別報告

- ・本学の教育課程改革にむけての私案 斎藤 誠

### ○研究報告

- ・AO入試に関する試論(3) 片瀬 一男

—なぜ入試改革は「失敗」しつづけたのか？

：東北学院大学工学部の場合—

- ・日本の大学の「教養教育」の新たな動向

—日本社会や大学教育の構造転換の中で—

岩谷 信

### ○報告

- ・2009年度「新入生意識調査」について 教育研究所

### ○シリーズ・東北学院大学の教育を考える 第1回

- ・「自己チュー」批判論の盲点

—予言された「ナルキッソスの死」の意味—

岩谷 信

## 第9集 2009年3月

### ○研究報告

- ・AO入試に関する試論(2) 片瀬 一男

- ・教養教育科目としての「キリスト教学」の意味と課題 佐藤 司郎

- ・性の多様性に対応する人権教育についての考察 魚橋 慶子

### ○報告

- ・「大学生の勉強法」を教える初年時授業

—「言語文化基礎演習」の授業内容とその改善プロセス

佐伯 啓

・学士課程教育のめざす方向とその背景 吉村功太郎

○図書紹介

・神永正博著『学力低下は錯覚である』 菅山 真次

**第8集 2008年3月**

○報告

・初年次教育としての「大学生活入門」—法学部における実践報告— 齊藤 誠

・社会変容とこれからの教養教育 佐々木俊三

○研究報告

・A O入試に関する試論 (1)  
—教養学部におけるA O入試入学者の成績を事例に— 片瀬 一男

○特別報告

・各大学の「大学教育センター」系組織とその特色  
—本学の「教育力の向上」を目指して・準備資料— 教育研究所・所員会議

**第7集 2007年3月**

○特別報告

「大学教育への取り組みに関する調査」(2006年11月実施)

・ユニバーサル化した大学における教員の苦悩  
—東北学院大学の教員意識調査から— 片瀬 一男

・跋：調査報告書を読んで 副学長(学務担当) 大塚 浩司

○報告

・経済学科原級留の実態とその要因の調査報告 千葉 昭彦

○教育研究所所蔵図書紹介

・『恐るべきお子さま大学生—崩壊するアメリカの大学』 松本 洋之

**第6集 2006年3月**

○報告論文

・「工学基礎教育センター」の果たす役割と期待 石橋良信、星 善元、女川 淳

・文学部歴史学科におけるキャリア支援教育  
—「就職の基礎」の〈解説〉を中心に— 楠 義彦

○研究報告

・ハビトゥスとしての読書の力

—東北学院大生の図書館利用と学業成績—

片瀬 一男

## 第5集 2005年3月

### ○報告論文

・成績分析からみた大学教育研究(4)

—アドミッションズ・オフィス方式による入学生の学業成績を中心に—

大江 篤志

・経済学科生の入試類型別成績

調査報告：本学経済学科生の成績と入試類型との関連について

原田 善教

・退学者動向・調査報告(1) 教養学部の場合

意欲があつて大学を去る者、意欲を失つてやめる者

二つの不幸な退学理由へのブール代数アプローチ

片瀬 一男

### ○特別報告

・教養学部「学生による授業評価」実施概要

教養学部授業評価委員会

## 第4集 2004年3月

### ○報告論文

・東北学院大学工学部における教育改善の試みと将来構想

石橋良信、星 善元、小野 孝、志子田有光、石川雅美

・カード利用による「事案のルール」獲得の可能性

陶久 利彦

・互惠を原則とした地域と大学との連携

—東北学院大学の社会教育実習・ボランティア活動の実践—

水谷 修

・NPOが大学と連携することの意義

—東北学院大学「ボランティア活動」への取り組み—

特定非営利活動法人グループゆう 中村 祥子

・東北学院大学と連携した講座造り実習の取り組み

仙台市中央市民センター 今川 義博

## 第3集 2003年3月

○成績分析からみた大学教育の研究(3)

大江 篤志

入学類型と全学共通科目学業成績との関係を中心に

1. 課題と方法 (1)目的 (2)方法 分析対象とする学生/入学類型/全学共通科目/

英語系科目A1/英語系科目A2/4科目の学業成績の関係

2. 全学共通科目の学科別学業成績平均 (1)キリスト教学系科目X1 (2)キリスト教学系科目X2 (3)英語系科目A1 (4)英語系科目A2 (5)4科目の学業成績の関係
3. 文学部 3-1英文学科 キリスト教系科目X1.X2 3-2史学科 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2
3. 経済学部 4-1経済学科 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2  
4-2商学科 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2
4. 法学部法律学科 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2
5. 工学部 6-1機械工学科 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2 6-2電気工学科 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2 6-3応用物理学科 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2 6-4土木工学科 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2
1. 教養学部教養学科 7-1人間科学専攻 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2 7-2言語科学専攻 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2 7-3情報科学専攻 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2
2. 二部 8-1二部英文科 キリスト教系科目X1.X2 8-2二部経済学科 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2
3. 総括と検討 9-1主要入学類型の分布 男子/女子 9-2学科内部における学業成績の男女差 9-3入学類型別にみた学業成績の男女差 キリスト学系科目/英語系科目 9-4入学類型と学業成績 キリスト学系科目/英語系科目/キリスト教系科目と英語系科目の関係

終わりに

## 第2集 2002年3月

○成績分析からみた大学教育の研究(2)

大江篤志・水谷修、他

入学類型と学業成績との関係

4. 課題と方法 (1)目的 (2)方法
5. 文学部 2-1英文学科 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目, 学業成績/  
学業成績/英文科小括 2-2史学科 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目,  
学業成績/学業成績/史学科小括
6. 経済学部 3-1経済学科 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目, 学業成績/学業  
成績/経済学科小括 3-2商学科 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目,  
学業成績/学業成績/商学科小括
7. 法学部法律学科 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目, 学業成績/学業成績/法律学科小括



8. 教養学部教養学科 5-1人間科学専攻 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目, 学業成績/学業成績/人間科学専攻小括 5-2言語科学専攻 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目, 学業成績/学業成績/言語科学専攻小括 5-3情報科学専攻 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目, 学業成績/学業成績/情報科学専攻小括
9. 二部 6-1二部英文科 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目, 学業成績/学業成績/二部英文学科小括 6-2二部経済学科 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目, 学業成績/学業成績/二部経済学科小括

おわりに

## 第1集 2001年3月

○成績分析からみた大学教育の研究(1)

大江篤志・水谷修

はじめに

1. 各学科の学生構成 (1)問題関心 (2)学部学科別学生数 (3)各学科の男女比
2. 対象卒業生の成績
3. 合否、放棄科目数の学科男女別分布 文学部四学科 経済学部三学科  
法学部法律学科 教養学部 小括
4. 学生の移動の場 4-1-(1)入学類型の多様化 (2)留年と原級留置き、休学と退学  
(3)科目の性格 (4)教員カテゴリー (5)課外活動などとの関連  
4-2-開放系システムとしての大学教育

# 東北学院大学教育研究所規定

(制定 平成10年4月1日)

(設置)

**第1条** 本学に教育研究所（以下「本研究所」という。）を置く。

(目的)

**第2条** 本研究所は、高等教育に関する研究を行い、本学教育の向上に資することを目的とする。

(事業)

**第3条** 本研究所は次の事業を行う。

- (1) 高等教育の基本問題に関する研究
- (2) 本学教育の基本問題に関する研究
- (3) 高等教育に関する情報サービス
- (4) 刊行物の発行、並びに講演会等の開催
- (5) 研究に必要な資料の収集、及び整理
- (6) その他必要な事項

(構成)

**第4条** 本研究所に所長1名、所員若干名を置く。

(所長)

**第5条** 所長は、大学長がこれを委嘱する。

2 所長の任期は2年とする。但し、再任を妨げない。

(所員)

**第6条** 所員は、本学の専任教員より所長が推薦し、大学長がこれを委嘱する。

2 所員の任期は2年とする。但し、再任を妨げない。

(総会)

**第7条** 総会は年1回所長がこれを招集する。但し所長が必要と認めたときは、臨時総会を招集することができる。

2 総会は所員の過半数の出席がなければ開くことができない。

3 総会の議長は所長がこれにあたる。

4 総会は、本研究所の事業及びこれに関することを審議する。

5 総会の決議は、出席者の過半数をもってする。

(事務職員)

**第8条** 本研究所に事務職員若干名を置く。事務職員は庶務に従事し、本研究所の事業遂行に必要な事務を処理する。

(経費)

**第9条** 本研究所の費用は基金、寄付金、事業収入及び本学からの補助金によって支弁する。

(改廃)

**第10条** この規定の改廃は、総会の決議及び全学教授会の議を経て理事会が行う。

**附則**

1 この規定は、平成10（1988）年4月1日から施行する。

2 昭和42年4月1日制定の東北学院大学教育研究所規定及び昭和47年10月1日制定の東北学院大学一般教育研究所規定は廃止する。

## 第15集 執筆者紹介 (掲載順)

斎藤 誠 (東北学院大学法学部教授・学務担当副学長)  
神林 博史 (東北学院大学教養学部准教授)  
片瀬 一男 (東北学院大学教養学部教授)  
千葉 昭彦 (東北学院大学経済学部教授)  
佐藤 篤 (東北学院大学教養学部教授)

## 教育研究所 所員紹介

所長	教養学部教授	水谷 修
所員	文学部教授	楠 義彦
所員	経済学部教授	千葉 昭彦
所員	経営学部准教授	佐久間義浩
所員	法学部講師	白井 培嗣
所員	工学部教授	遠藤 孝夫
所員	工学部教授	神永 正博
所員	教養学部教授	大江 篤志
所員	教養学部教授	片瀬 一男
所員	教養学部准教授	神林 博史
所員	教養学部准教授	岡崎 勘造
所員	教養学部准教授	金井 嘉宏
所員	教養学部准教授	渡部 友子
所員	教養学部准教授	武田 敦志
所員	教養学部准教授	天野 和彦

東北学院大学教育研究所報告集 第15集

発行日 2015年3月30日

編集兼  
発行人 水谷 修

発行所 東北学院大学教育研究所  
〒981-3193 仙台市泉区天神沢2-1-1  
Tel. 022-375-1184

印刷 株式会社東北堂  
〒982-0804 仙台市太白区鉤取一丁目212  
Tel. 022-245-0229